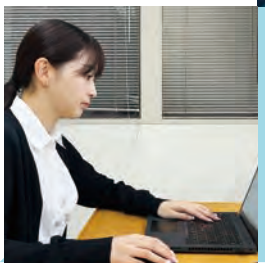
ASHIMORI

芦森工業株式会社

統合レポート 2024

INTEGRATED REPORT 2024



つむぐ 技術（ちから）、つなげる 未来

Powered by innovation, pioneering the future

つむぐ 技術（ちから）、つなげる 未来

社是 / 経営理念

1. 信用を重んじ、堅実を旨とする。
2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く。
3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する。

CONTENTS

Value Creation

03 価値創造の軌跡
05 価値創造プロセス
06 価値創造の源泉
08 芦森工業の事業

Growth Strategy

10 トップメッセージ
15 芦森グループ中期経営計画
17 自動車安全部品事業
19 機能製品事業
21 研究開発・品質管理・知的財産
23 財務戦略

Sustainability Action

25 サステナビリティ経営・マテリアリティ
27 役員紹介
29 社外取締役メッセージ
30 社外監査役メッセージ
31 ガバナンス
37 環境
43 人材戦略
45 従業員座談会
48 社会

Data

52 財務ハイライト
54 11年間の主要財務データ
55 ESG関連データ
56 企業情報

編集方針

本レポートは、芦森工業の企業価値創造のための取り組みを報告する媒体です。株主・投資家の皆さまをはじめとしたあらゆるステークホルダーの方々に、経営実績や戦略などの財務情報に加え、環境・社会・ガバナンスの非財務情報の両面について、ご理解いただけるよう編集しています。

報告対象期間

2024年3月期（2023年4月1日から2024年3月31日）
必要に応じ、過去や直近の情報も記載しています。

報告範囲

芦森工業株式会社およびそのグループ会社

発行時期

2024年9月

免責事項

本レポートの掲載内容には細心の注意を払っていますが、正確性や更新時期を保証するものではなく、掲載情報の更新・誤りなどによって生じたトラブル・損失および損害に対しても責任を負うものではありません。

Value Creation

価値創造の軌跡

1878年の創業以来、芦森工業のアイデンティティーである「技術力」で時代に先駆けた新しい製品を提供し、社会の発展に貢献してきました。私たちは、安全・リニューアル分野で社会に貢献する企業としてこれからも挑戦し続けます。

各時代の認識と新規事業へのチャレンジ

1878 10代芦森武兵衛が、当時紡績業の中心地であった大阪市で綿麻糸物商を創業
1885 綿綱（伝導用綿ロープ）の製造を開始
1887 業界の技術的変化に伴う需要に対応するため、リング機用スピンドルバンドの製造を開始
1908 ロープおよびスピンドルバンドの堅牢性や、組紐技術が市場で高く評価され、本格的な量産体制を構築するべく、新工場（大阪市淀川区十三）を新設
1935 株式会社に改組し、株式会社芦森製綱所を設立
1944 芦森工業株式会社に社名変更

1950 大阪証券取引所に上場
1952 ゴム内張り消防用ホースの開発に日本で最初に成功し、製造を開始
1953 合成繊維ロープの製造開始
1961 東京証券取引所第1部に上場

1962 自動車用シートベルトの生産を開始
※1989年には、エアバッグの生産を開始。
1967 シートベルトのJIS規格制定の翌年に、シートベルトメーカーとして初の認証を取得

1878 — 1950 — 1962 —

創業 －ロープ製造の開始

紡績工場が次々と設立されていた大阪で、「綿糸こそ産業興隆の先駆を為すものであり、今後ますます需要を高めるであろう」との認識のもと、10代芦森武兵衛が1台の原動機から複数の機械へ動力を伝える手段である綿綱（伝導用綿ロープ）の機械による国産化を日本で初めて成功させました。

消防ホース事業への進出

伝導用綿ロープの需要急減に対応すべく、当時入手が困難であった麻ではなく、漏水防止対策を施したゴム内張りによる綿やナイロン製の平織消防ホースの生産に、日本で初めて成功しました。

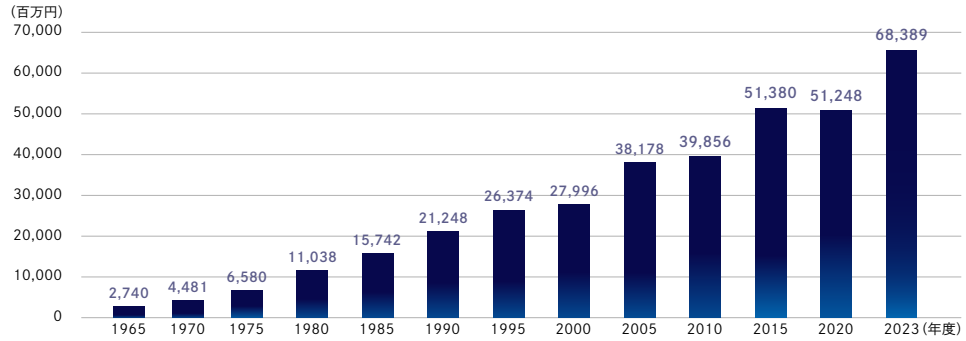
自動車安全部品分野への進出

米国で自動車のシートベルト装備が法制化されていくなか、日本での需要拡大も見越し、長年の製織ノウハウも生かして自動車用シートベルトを開発、生産を開始しました。

Value Creation

価値創造の軌跡

売上高の推移



各時代の認識と新規事業へのチャレンジ

1980 繊維や消防ホースで培った独自技術を応用し、東京ガス株式会社と共同で研究開発した管路更生工法「パルテム(ホースライニング工法)」による事業を開始

1991 リフトアップ方式ローラーコンベア「エアーロールシステム」の製造を開始

1998 KPNアシモリ株式会社(現アシモリ・タイランド株式会社)を設立。その後2003年に中国に上海事務所、2009年にインド、2011年に韓国、2012年にメキシコ、2017年にドイツに進出

2008 芦森工業山口株式会社を設立
浜松工場を設立

2016 オールセーフ株式会社を子会社化

2017 株式会社柴田工業を子会社化
タカラ産業株式会社を子会社化

2022 東京証券取引所プライム市場に移行

2023 東京証券取引所スタンダード市場に移行

1980— 1998— 2022—

管路更生事業への進出

ガス管の新規敷設からメンテナンス・補修への指向の変化を捉え、それまで培ってきた技術を応用した管路更生工事の新技術「パルテム(ホースライニング工法)」を日本で初めて開発しました。

海外への進出、そして新たな成長ドライバーの確立

自動車安全部品事業では、1998年に初めての海外工場をタイに建設以来、海外における調達力やコスト競争力の強化、販路拡大のための海外戦略基地として、グローバル展開を加速させました。また、機能製品事業では生産体制を拡充。物流機器関連や管路更生工事関連会社を買収・子会社化するなど、事業の強化・業容の拡大を図りました。

世界に通じる“Excellent Company”へ

「新」Ashimori Vision 2028の制定

創業150周年を迎える2028年に向け、ミッション(Mission)、ビジョン(Vision)、バリュー(Values)をグループ従業員が共感できるものに見直し、意思統一を図るための新スローガン「つむぐ技術(ちから)、つなげる未来」を作成しました。スローガンは社是の精神を引き継ぎながら、培われた技術力を生かし、世界に通じる“Excellent Company”を目指して企業風土改革を進めていく強い意志を示しています。

Value Creation

価値創造プロセス

Company Slogan
つむぐ 技術（ちから）、つなげる 未来

社会的課題	INPUT	事業活動	OUTPUT	OUTCOME

芦森工業が認識する重要な課題

- 気候変動
- 資源の枯渇 水資源
- 安心・安全
- 人口減少・高齢化
- ジェンダー平等・多様性の尊重
- 人権

INPUT

財務資本
連結総資産
53,861百万円

人的資本
連結従業員数
2,442名

知的資本
特許保有件数
国内 349件 | 国外 205件

研究開発費
501百万円（自動車安全部品事業）
568百万円（機能製品事業）
181百万円（その他）

製造資本
グループ会社
日本 7社 | 海外 7社

※2023年度実績

新しい価値の提供

中期経営計画
「新」Ashimori Vision 2028
世界に通じる“Excellent Company”
P.15

Mission / Vision / Values

- **Mission** 命と暮らしを守る製品の提供
- **Vision** すべての人々に信頼される企業グループ
- **Values** 品質最優先のものづくり

社是
1. 信用を重んじ、堅実を旨とする。
2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く。
3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する。

×

強み
- 伝統・信頼
- 芦森パーソン
- 技術・適応・研究開発力

マテリアリティ
- 環境との調和
- 確かな品質と適正な価格での製品提供
- ガバナンスの充実
- 人材育成とダイバーシティ
- 法令・ルール遵守の徹底

P.25

OUTPUT

主な製品
- シートベルト
- エアバッグ
- セパレーションネット
- トノカバー

P.08

- 管路更生工法「パルテム」
- 消防用・消火栓用ホース
- 災害対策用品

P.09

- 物流省力化製品
- 地盤改良製品
- ベルト（陸海上輸送・太陽光発電）

P.09

OUTCOME

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

安心・安全・快適な社会の実現

- 世界中の人々の命と安全を守る
- 世の中の安心を守る
- 人びとの暮らしを支える

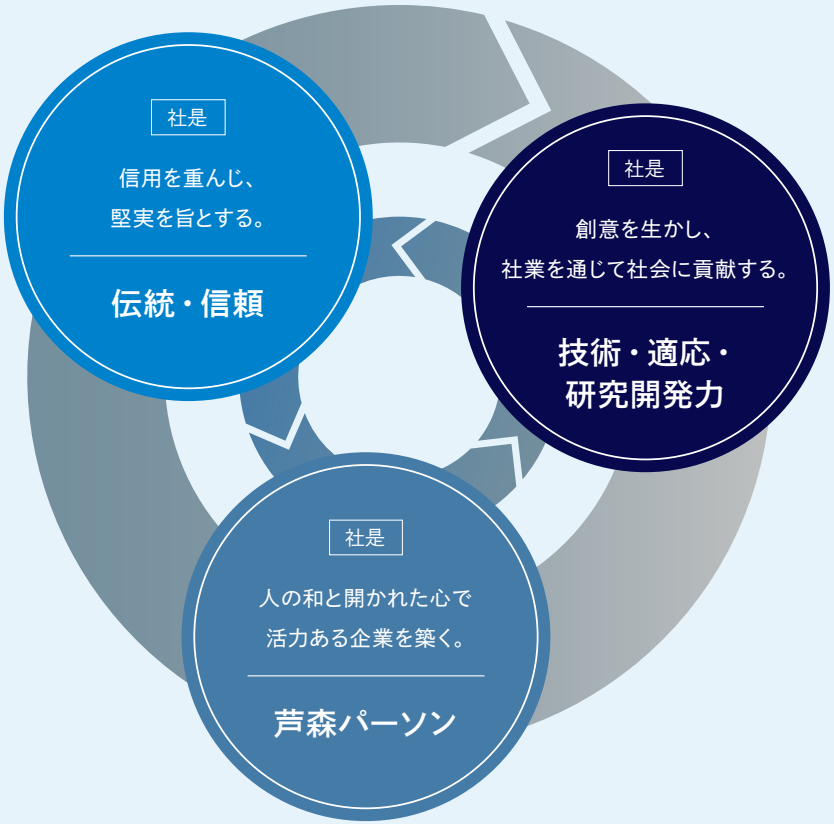
Value Creation

価値創造の源泉

芯森工業は、146年の歴史のなかで培ってきた強みがあります。社是を基本とする「伝統・信頼」「技術・適応・研究開発力」「芯森パーソン」は、事業の多角化によって多様な製品を創出し、安心・安全・快適な社会を実現するための源泉となっています。

伝統・信頼

芯森工業は2028年に創業150周年を迎えます。長い歴史に裏打ちされた高い技術力を基盤に、細かなご要望にも真摯に対応し、多くのお客さまと信頼関係を築いてきました。これからも、命と暮らしを守る製品をご提供し、全ての人々に信頼される企業グループであり続けます。



技術・適応・研究開発力

ロープ製造を祖業とし、繊維で培った要素技術を生かして事業内容の多角化を継続的に進め、現在では、繊維産業の枠を超え、自動車用セーフティ部品やライフラインの更生といった"安全・リニューアル"分野を主力事業としています。これからもたゆまぬ研究開発を続け、技術革新で社会に貢献していきます。

コアテクノロジーを生かし、「安全・リニューアル」市場へ展開

織る・組む
各種円筒織物、広巾織物、ロープ、ベルト、紐 など

巻取る・固定する
シートベルト、自動車用内装品、タイトナー など

樹脂（被覆）加工
消防用ホース、パルテム用ライナー、SZ構造材 など

膨らませる
エアバッグ、エアーロールシステム、土木用袋体 など

複合化 ▶ システム化

「織る・組む」「巻取る・固定する」「樹脂（被覆）加工」「膨らませる」という4つのコアテクノロジーを組み合わせ・発展させ、繊維・樹脂・金属の複合コンポーネンツからシステム商品までを開発。「安全・リニューアル」市場へ事業展開することを目的とし、研究開発を継続的に行っています。

芯森パーソン

企業の理念に共感し、その一員として社内外に関わり、そのフィードバックとして感謝されることが絶対的な仕事のやりがいになります。このために求められる「芯森パーソン」としての人材像を「芯森グループ人材Vision」に、また社会への約束として「芯森グループ企業行動指針」を策定しています。

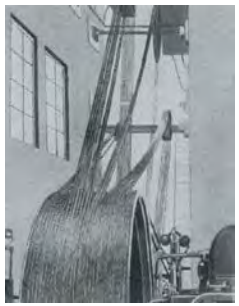
Value Creation

価値創造の源泉

技術・適応・研究開発力から生まれた 4つの日本初

伝導用綿ロープの製造開始（1885年）

創業者である10代芦森武兵衛は、「綿麻糸商」を起業したのち、輸入に頼っていた伝導用綿ロープの日本初の国産化を成功させました。



シートベルトメーカーとしてJIS表示許可を受ける（1967年）

シートベルトメーカーとして、日本で最初にJIS表示許可を受け、海外においても規格に合格し、欧米輸出への道が開けました。

ゴム内張り消防用ホース「ジェットホース」の製造開始（1952年）

繊維で培った「織る」「樹脂加工」するという要素技術を生かし、ゴム内張り消防用ホース「ジェットホース」を開発。このゴム内張り消防用ホースは、当時主流だった麻製のホースを駆逐し、現在の消防ホースの原型となりました。

パイプライニングシステム「パルテム」完成（1980年）

道路を掘り起こすことなく、管路の「補修・更新」をするという「非開削工法」を純国産技術として開発しました。もともとあった管路を撤去することなく再利用するため、廃棄物が少なく、工期を短縮することができます。

Value Creation

芦森工業の事業

連結売上高
50,039百万円
（2024年3月期）

自動車安全部品事業

事業	特徴	ソリューション

シートベルト関連

- シートベルト

交通事故発生時の乗員保護と快適な車内空間の提供を通じて、社会的インフラとなっている自動車の機能向上に貢献しています。自動車のEV化に伴い自動車部品の軽量化が時代の流れとなっており、完成車メーカーと共同で環境への負荷の少ない製品の開発を推進しています。

安全性と快適性を両立

1967年にシートベルトメーカーとして初めてJIS規格の認証を受けて以来培ってきた技術が詰め込まれており、安全性と快適性を両立した「次世代シートベルト」への挑戦にも積極的に取り組んでいます。

エアバッグ関連

- エアバッグ

最先端技術で命を守る

繊維・化学・電気・電子・制御・機械・センサーなど時代の最先端技術を詰め込んだ多種多様なエアバッグを製造しています。

ドライバーエアバッグ

パッセンジャーエアバッグ

サイドエアバッグ

カーテンエアバッグ

内装品関連

- シェード（電動・手動）
- セパレーションネット

快適な車内空間を演出

シェード（電動・手動）は車窓からの光量を調節することで快適な車内空間を演出します。

荷崩れを防ぐ

BMW X2(©BMW AG)

セパレーションネットは乗員スペースとラゲージルームを仕切り、急制動時に乗員スペースへの荷物の進入、荷崩れを防ぐことで乗員を守ります。

盗難の防止

トノカバーはラゲージルーム内の荷物をカバーし、車外から見えないようにすることにより盗難の防止にも役立っています。

Value Creation

芦森工業の事業

連結売上高
18,320百万円
（2024年3月期）

機能製品事業

事業	特徴	ソリューション
パルテム部門 ● 管路更生工法「パルテム」用材料・資機材、土木資材などの製造・販売、管路更生工事 ● 土木資材	地下に埋設された、上水道、下水道、農業用水をはじめ、ガス、通信、電力などの管路を掘り起こすことなく補修する非開削工法で、環境への負荷を減らし地球に優しい工法によりライフラインを支えています。	**ライフラインの維持・管理** 安心・安全な管路更生技術でライフラインの維持管理に貢献しています。
防災部門 ● 消防用ホース ● 緊急排水ホース ● 防災関連資機材	放水時の圧力損失を低減した低圧力損失ホースや大口径ホースなど、多種多様なホースで社会インフラの安心・安全を支えています。また、災害時の被害軽減に貢献する災害対策用品を提供しています。	**消防ホースの送水・放水距離の伸長** 低圧力損失ホースは送水時の圧力損失が最大50％低減し、消火性能（送水量、通水時間、送水距離）が向上します。 **大規模火災に対応** 大口径大量送水用ホースは大量の水を遠くまで送ることができ、ホース両面をウレタン樹脂で被覆した高耐候性・耐久性で大規模火災にも対応します。 **災害時の救助支援** 給排水システムは機動性・可搬性に優れた給排水システムで、市街地などの一時排水や災害時の生活用水確保など迅速な救助支援活動に貢献します。
産業資材部門 ● 漁業・船舶用ロープ ● タイミングベルト用補強布 ● 物流省力化システム	繊維資材から物流省力化システムまでさまざまな製品を製造・販売。環境に配慮したクリーンエネルギーを支える資材を提供するほか、トラック物流関連製品は、誰でも簡単に取り扱え、働きやすい職場整備に貢献しています。	**物流の省力化の実現** エアーロールシステムはトラック荷台のローラーコンベアをエアーホースで上下させ、女性や高齢者でも容易に扱える荷役作業省力化システムです。 **軟弱地盤の沈下を防止** パレスシート（円筒織物技術）は、軟弱地盤表層処理工法用シートによる地盤改良で、農用地などに重機の足場を作り、工事後は容易に農用地に復旧できます。 **さまざまな分野で活躍** ゴム資材用や耐熱スクリーン用などの広巾織物から、荷物や車両を固定するラッシングベルトまで、さまざまな分野に繊維資材を供給しています。

Focus

地中に埋まっている管路（ライフライン）の多くは経年劣化と環境変化により老朽化が進行しています。近年頻発している地震や地盤沈下によっても破損や強度低下などが発生しています。今後ますます必要とされる管路更生分野において新たな技術の開発・施工に努め、社会を支えます。